

2021年12月期第3四半期 決算説明会 Q&A

日時: 2021年10月29日(金) 18:00~18:50

| No | 項目 | Q | A |
|----|---------|---|---|
| 1 | 精密減速機 | 精密減速機の需要の動向について、①短期②中長期の2つの視点から状況を確認したい。 | ①3Qの受注水準は一時的に低くなったが、顧客からヒアリングした生産計画を踏まえ、4Qでは年間計画にキャッチアップできる見込み。 ②部品不足によるロボットメーカーの生産調整については、来年の春には部品不足がある程度解消するのではないかと考えている。自動車産業、特にEV自動車向け産業用ロボットの旺盛な需要環境にあり、当社の精密減速機についても、来期以降も高い需要が続くという見方をしている。 ロボットメーカーの中には生産能力を増強する計画も聞いており、当社としてはそれを満足できる生産能力で追従していく。 |
| 2 | 精密減速機 | ロボットメーカーへの製品納入に関し、納入が計画通りにいかない構造上の理由があるのか？ | ロボットメーカー側もJIT生産を行っており、生産計画にフィットする形での納入が求められている。 数か月先までの生産計画内示を受領しているが、顧客の生産計画次第で実際の受注(納入する数量)は変動する。 |
| 3 | 精密減速機 | 部品不足等の問題は解消されていないように見えるが、10月に入って、ロボットメーカーの受注が回復してきた背景は？ | 部品不足問題に対し、ロボットメーカー各社が産業用ロボットの強い需要へ対応すべく部品調達に奔走されたことで、一定の目的が立ったのではないかと考えている。 現時点でも当社への受注は確実に増えているが、その持続性についてはやや懸念が残る。 なお、工作機械、半導体製造装置向けの精密減速機の需要は確実に取り込んでいる。 |
| 4 | 油圧機器 | 油圧機器事業の業績の背景について教えてほしい。特に他社では需要減が言及されている中国市場に対しての見方を教えてほしい。 | 中国市場の建機需要について、見通しが不透明であることは否定できないが、4Qに来期の春節に向けた需要の増加を見込んでいる。中国以外の地域向け(欧・米・東南アジア)の需要の回復もあり、計画線での着地を見込む。 中国建機販売の一定量を占める東南アジア向け等の輸出版売の需要も間接的に享受している可能性がある。 |
| 5 | 油圧機器 | 中国からの建機輸出が増えると、メンテナンスフリーな高価格モデルが増加する可能性もあるが、ナブテスコにとってプラスなのか？ | 高付加価値品が増えるのであれば、当社としてはシェアを獲得するチャンスになり得る。 基本戦略としては世界の建機需要に対してどの顧客がシェアをとっても当社の仕事量が確保できるようにしたい、と考えている。 中国ローカルの油圧機器メーカーも台頭してきているものの、耐久性、性能の面でまだ当社に優位性がある。 |
| 6 | OVALO | OVALO社の通期売上計画達成の見込み、および将来の需要動向について教えてほしい。 | OVALO社の主要顧客である自動車メーカーにおいて、半導体不足の影響で生産台数が増えていない状況である。将来的には生産を上げていきたいという顧客の意向もあり、中長期では成長を見込むものの、足下の環境は厳しく、計画未達のリスクが残る。 |
| 7 | 全社 営業利益 | 3Qの利益率が下がっているが、サプライチェーン混乱に伴う諸問題から来るコスト増に起因するものか？影響額はどれくらいか？ | 3Qで生産量が減少したことにより、稼働益が減少したことで収益性が下がっている部分がある。 鋼材価格の高騰や物流コスト増加等のコスト増加については、下期で約7~10億円のマイナス影響が出る見込み。 中でもCMPセグメントでの影響が最も大きい。 調達にかかる物流費増もあるが、当社製品を納入する際の輸送費増も影響が大きい。 (通常船便での輸送を行うところ、航空便を使用するなど) |
| 8 | 全社 営業利益 | 3Q累計で売上、営業利益ともに修正計画からの乖離はどれくらいあるのか？4Qの当社費用を一部削減しても達成する意思はあるか？ | 3Q時点でやや売上、営業利益ともに計画線に及ばなかったのは事実だが、想定範囲内であり、現時点では4Qで取り戻せる範囲だと考えている。 計画の達成のためには最大限努力する。そのための本社費用等の節減についても検討しており、研究開発費や必要経費の精査を行っている。 |